

ボランティア活動に参加してみたい方へ

- ①学生ボランティア団体に参加してみる
 - ②学外のボランティア団体・NPO等に参加してみる
 - ③ボランティア活動のコーディネートや企画運営と一緒にやってみる
 - ④ボランティアフェア(ボランティア団体の紹介イベント)に参加してみる
 - ⑤ボランティア情報メール配信サービスに登録してみる
- 団体紹介ページ(p13-23)
- SCRUM紹介ページ(p4-5)
- 特設サイト(各種リンク)
- 公式サイト(各種リンク)のフォームから

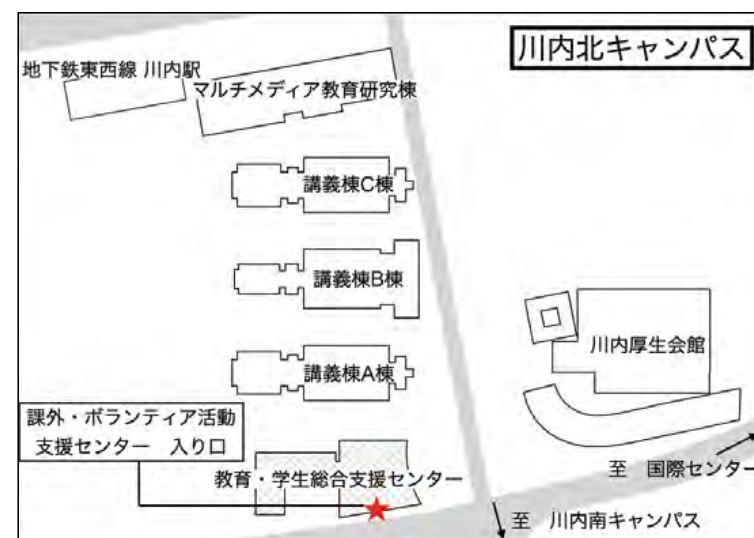
課外・ボランティア活動支援センター利用案内

在学生の皆さん向けに、ボランティア活動に関する個別の相談を受け付けています。
ボランティアに関連する個別相談(情報がほしい、活動に関する悩みがある、団体設立を考えている等)もお待ちしております。

【時間・相談予約】

対応時間: 平日11:00~19:00(原則)

予約方法: 公式サイト(各種リンク)にあるフォームからお申し込みください



各種リンク

SCRUM
SNSで情報発信中!



@TOHOKU_VOL



@voltohokuuniv



@scrum_1446



課外・ボランティア活動支援センター 公式サイト

ボランティアフェア 特設サイト



Volunteer Seminar Journal Vol.18

発行日 令和5年(2023年)4月1日

編集者 松原久・高橋結・瀧澤知佳・千葉隆司

発行者 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター
〒980-8576 仙台市青葉区川内41

連絡先 TEL:022(795)4948 Mail:vol.tohoku.univ@gmail.com

©2023 Tohoku University Printed in Japan

東北大学高度教養教育・学生支援機構
課外・ボランティア活動支援センター



Volunteer Seminar Journal Vol.18

2023 Spring
ボランティアセミナージャーナル



INDEX

東北大学のボランティア支援

課外・ボランティア活動支援センターについて	3
東北大学SCRUMについて	4、5
【コラム】ボランティアと私①ボランティア活動を始めてみて	6
【コラム】ボランティアと私②ボランティア活動の経験とキャリア	7

私たちの社会とボランティア活動

復興住宅を拠点としたコミュニティづくり	8
災害伝承	9
防災、災害時の緊急支援	10
【コラム】災害時と平時の関係性をどう捉えるか？	10
社会的貧困への対応	11
基礎教育保障	12

ボランティア団体の紹介

団体一覧	13、14
震災関係	15、16、17
防災	17
国際	18
防犯	18
キャリア・若者	19
【コラム】学内団体と学外団体の特徴を比べてみました	19
教育・学習支援	20、21
地域支援	22、23
環境	23

ボランティア活動に参加してみたい方へ 24

各種リンク 24

はじめに ボランティア活動への招待

東北大学では、東日本大震災をきっかけに、大学周辺や被災三県の各地でボランティア活動を行なう学生の皆さんの動きが活発になりました。それから12年が経過した現在でも、復興支援や地域支援（平時からの地域課題に焦点）へとかたちを変えつつ一部の活動は継続しています。さらに新たなジャンルの活動（国際系、教育・学習支援系など）も拡がりつつあります。

ボランティア活動は、地域を知り、人と出会い、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。東北大学課外・ボランティア活動支援センターでは、学生の皆さんがボランティア活動に参加し、活躍できる様々な場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください！

課外・ボランティア活動支援センターが提供する主な支援

支援	具体例
ボランティア活動に関心のある皆さんへの活動紹介・活動体験機会の提供	ボランティアフェア（ボランティア団体の紹介イベント）の開催、ボランティア体験プログラムの開催
社会貢献活動を取り入れた授業の提供	（ページ下を参照）
ボランティア活動を行なう団体の支援	研修会の企画、団体間連絡会議の開催、物品・場所の提供、助成金の紹介
新たなボランティア活動の企画・創出	救援活動の企画（災害発生時）、地域社会と連携した（ニーズに対応した）新たな活動の企画
学生スタッフSCRUMの育成	（次ページを参照）

授業でボランティア活動や災害被災地の課題に触れてみたい方へ

東日本大震災被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して社会に貢献しながら学ぶことのできる科目を、以下のように開講／開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学んでみましょう！

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
国際教育科目	国際教養PBL「東日本大震災の経験を未来につなぐ」	松原久、高橋結	【1S,3S】月2
カレントトピックス科目	福島復興・再生	佐々木啓一、御手洗潤、岩瀬恵一、江口博行、ユリア・ゲルスター、松原久、高橋結	【2S,4S】木5

※下線部は、課外・ボランティア活動支援センター教員

東北大学SCRUM

東北大学SCRUMは課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織です。ボランティア活動を「したい人」「している団体」のつなぎ役(中間支援)として、それぞれに向けた活動・企画を行なってきました。また、充実した支援を行なうため、SCRUMメンバー自らが多様なボランティア活動の企画・参加や勉強会の企画も行なっています。SCRUMでは、以下のように「活動における3つの柱」を掲げています。

SCRUMでは、メンバーが関心のあるテーマごとに直轄部に所属し、長期的に活動しています。他にもプロジェクトチーム(PT)を結成し、細やかな活動を行なっています。

さらに、メンバー外への情報発信活動なども積極的に実施してきました。

学ぶ・深める

- 防災部
- 震災伝承部
- 魅力発信の部
- 災害救援部
- ボランティア部
- 人権共生部
- 各種 PT

SCRUMは、ボランティアをやりたい人と、実際にやっている人・団体をつなぐ「ボランティアのボランティア」をしています。ボランティアしたい人びとに対しては、ボランティア活動の広報を行ない、ボランティア団体とは合同企画の実施や情報共有・連携を行なっています。SCRUMはセンターと連携して、ボランティア団体合同説明会(ボランティアフェア)や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の執筆など、さまざまな形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。

ボランティアのボランティア

SCRUMメンバーは、災害発生時に緊急支援活動を実施してきました。他にも、SCRUM独自の企画・イベントも行なっています。

また、他のボランティア団体と連携した活動も行なっています。

ボランティア

- 新たなニーズに対応したボランティア活動の企画
- 緊急災害派遣
- その他、団体への所属
- 直轄部・PTでの活動

直轄部

左のページの「学ぶ・深める」にある通り、『直轄部』ではそれまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定して勉強会を開いたり、実際に現地に赴いて活動を行ったりしています。

名称	活動内容
震災伝承部	東日本大震災をより多くの人に知ってもらうことを目的に、語り部さんによる講演会や伝承ツアーを行なっています。
人権・共生部	人権問題や共生への課題を根本に抱える社会の諸問題について、語り合いながら学びを深めていく勉強会を主に行なっています。
災害救援部	災害時にすぐに動くために自分たちには「何ができるのか」を考え、「できること」を増やす活動をしています。
防災部	東北地方で学んだ知識をどのように「防災」に活かせるかを考え、防災キャンプ等の企画を行なっています。
魅力発信の部	自分たちが感じた東北の魅力発信を目的に、宮城県沿岸の魅力スポットをまとめたパンフレットを作成しています。
ボランティア部	震災系だけでなくさまざまなボランティアに参加します。東北大学生向けのボランティアツアーの企画も行なっています！



○先輩たちが行ってきた活動を振り返る勉強会の様子(災害救援部)



○震災遺構大川小学校の校庭の草取りをしている様子(ボランティア部)



○避難所運営体験をする様子(防災部)



ボランティア活動を始めてみて

今年度は、「東北大学SCRUM」と「東北大学ボランティアサークル たなぼた」に所属しているお2人に、①ボランティアを始めたきっかけと、②活動を通して得た気づきや学びについて聞きました。

① ボランティアを始めたきっかけ

私は高校までは部活動などで時間的な余裕がなく、ボランティアとはかけ離れた生活を送っていました。しかし、高校時代のけがをきっかけに誰かのために活動できる人に憧れを感じ、ボランティアを始めました。どのような活動をするのかよくわからないまま始めたボランティア活動も、大学内外の人と関わりながら今では楽しく活動させてもらっています。

② 活動を通して得た気づきや学び

ボランティアのやりがいとは大学では出会えない様々な人と関わりあうことが出来ることだと感じています。はじめは誰かのために活動できる実感が大きいことがボランティアのやりがいだと思っていましたが、実際の活動を通して、年齢、性別問わず多くの人の意見や考え方を知り、自分も成長することが出来るのはボランティアの大きな魅力だと考えるようになりました。

① ボランティアを始めたきっかけ

2年生になり、大学生のうちにしかできないことをやりたいと思って始めたのがきっかけでした。また、1年生の間は新型コロナウイルスの影響でほとんどの授業がオンライン授業となり、人と関わる機会が少なかったため、ボランティアを通して様々な人と関わることで自分の価値観や考え方を広げたいと思いました。

② 活動を通して得た気づきや学び

実際の活動を通して、ボランティアは思っている以上に住民さんから元気をもらえる活動だと感じました。特に、サロン活動をしながら住民さんとお話しする時間がとても楽しく、人とのコミュニケーションの大切さを実感しました。また、こうしたサロン活動をどうすればより良いものにできるかが活動する上でとても大切だと思いました。



上園 真輝人
(経済学部2年)

所属団体

・東北大学SCRUM



松崎 毅朗
(工学部3年)

所属団体

・東北大学ボランティアサークル
たなぼた



ボランティア活動の経験とキャリア

ここでは学生時代にボランティア活動を経験されたお2人に、ボランティア活動で得た経験や人との繋がりが、キャリア形成・将来の目標にどう影響しているか聞きました。

卒業後、地元で公務員として働いています。在学中は、石巻市でのコミュニティ支援、学校防災・震災伝承に関する学習活動、熊本・広島での支援活動を行っていました。私にとってボランティア経験は、以下の2点で大きな意味を持っています。

ボランティア活動と志望動機

活動を通して、災害だけでなく少子高齢化・産業の衰退等、様々な要因が地域の活力を奪う現実を目にしました。地元も例外ではなく、幅広く直接的な接点を持つことのできる公務員を志望しました。地元が東京に迷った際は、活動の経験や出会った人の言葉が背中を押してくれました。

ボランティア活動の活かされ方

“傾聴”の姿勢は信頼関係を築くうえで役立っています。加えて、組織で活動したという経験も活かされています。活動の方向性や課題を探った事、自分の役割を見つけ果たそうとした事は、職場で私を支えてくれています。



和久 晋太郎
(経済学部・2020年度卒業)

所属団体

・東北大学SCRUM
・東北大学インクストーンズ



清水 陽花
(工学部・2022年度卒業)

所属団体

・東北大学SCRUM
・東北大学福興youth

私は福島県での住民さん同士の交流のお手伝いや、震災伝承施設などの訪問、時には豪雨災害の後片付けを通して、4年間で継続的に現地に行くことを目標にしていました。実際に現地を訪れ、住民の方とお話をする中で、震災だけに着目せず、地域の震災前の生活や、震災が浮き彫りにした日常の社会問題にも目を向ける必要性を学ぶことができました。

特に人権問題については、ボランティアメンバー間で学びあう機会を設けました。このような経験から、将来は人々の生活背景にある地域の課題に着目しながら、社会を支えることに貢献したいと考えています。

私たちの社会とボランティア活動

私たちの社会でボランティア活動が行なわれる背景(の一つ)には「活動を必要とする対象・相手の存在」があります。自然災害から戦争、環境問題、人権問題、貧困問題まで、様々な課題に直面する人びとの存在は、多彩なボランティア活動の取り組みにもつながってきました。以下では東北大学生が取り組む特徴的なボランティア活動について、活動の背景にある課題とともにご紹介します。

テーマ 復興住宅を拠点としたコミュニティづくり

主な活動内容

- 交流の場づくり(サロン活動)
- 地域活動(祭り、季節の行事、清掃等)の手伝い

背景にある課題

● 社会的孤立

東日本大震災では、地震・津波や原発事故で元の住まいを失った方たちに向けて、3万戸以上の「復興住宅(災害公営住宅)」が供給されています。しかし各地の住宅では、地域や家族のつながりが希薄な入居者も多く、「孤独死」に象徴されるように孤立状況に陥りがちであることも課題となってきました。

● 地域活動の担い手不足

各地の住宅では、健康体操から季節ごとのイベントまで、入居者自身によるコミュニティづくりが試みられてきました。しかし時間の経過とともに多くの課題が浮上しており(入居者の入れ替わり、担い手の高齢化、活動のマンネリ化、コロナ禍での活動制限など)、新たな交流の場やボランティア等と連携した活動の活性化が期待されています。



▲サロン活動の様子(荒井東市営住宅)

町内会では高齢化が進み、祭りや掃除などの活動も難しくなっています。そこでぜひ一緒に活動し、手の届かないところへ「孫の手」のように力や知恵を貸してください！
 お願いいたします。

仙台市若林区荒井東市営住宅
 小野 款 さん

テーマ 災害伝承

主な活動内容

- 震災遺構・伝承施設の訪問、語り部講話等を組み込んだスタディツアー
- 語り部の経験を継承する「語り継ぎ」

背景にある課題

● 経験・記憶の風化

東日本大震災の発生から12年が経過したいま、「被災地」と呼ばれる地域を訪問しても、被害のつめ跡や被災前にあった暮らしの営みに触れることは難しくなっています。それと同時に各地では、被害のつめ跡をのこす建物の保存(震災遺構)、地域の経験・記憶を記録する施設づくり(伝承施設)も進んでおり、それらの訪問をとおして地域の経験・記憶に関心を持つことが期待されています。

● 語り部の固定化・高齢化

被災経験やそこからの思い等を伝える「語り部」の皆さんは、聞き手の感情を揺さぶり、伝承への関心や防災意識を高める力を持ってきました。ただし被災を経験していても「語り部」として発信できる人は限られており、高齢化も進行しています。そこで誰しものが「語り部」として経験を発信できる環境づくりや、語り部の経験を次の世代が伝える「語り継ぎ」を進めることも重要となっています。



▲震災遺構を視察する様子
 (石巻市門脇小学校)

▼タウンツアーの様子
 (福島県双葉町)



「東日本大震災について知りたい」と思った学生さん、ぜひ、沿岸部にお越しください。そこで語り部さんの話を聞いて心を動かされ、この話を「誰かに話したい！」と思ったら、それはもう「語り継ぎ」の一步です。

3.11メモリアルネットワーク
 藤間 千尋 さん

テーマ

防災、災害時の緊急支援

主な活動内容

- 避難生活体験、防災授業等の企画
- 災害時のニーズに対応した活動
- 足湯の提供

背景にある課題

● 次の災害への備え

日本社会では毎年のように各地で災害が発生しており、私たち誰もが「被災者」になる可能性を持っています。そこで一人ひとりがこれまでの災害の教訓を学び、命を守る備えを進めることが求められています。

● 支援の「もれ・むら」

災害後は生活や地域の立てなおしに向けて膨大なニーズ(困りごと)が発生し、支援の「もれ・むら」が生じやすくなります。そのなかで、それぞれの人・地域のニーズに対応した支援、悩みや気持ちを吐きだしやすい場づくり(例、足湯の提供)といった活動が重要となっています。

▼災害ボランティアセンター運営サポート研修の様子(学内)



▲福島県沖地震で被災した方への支援(宮城県山元町)

Column

災害時と平時の関係性をどう捉えるか？ 課外・ボランティア活動支援センター 松原 久

「災害時」と「平時」は、実をいうと密接な関係があります。まず災害時は「平時」の社会が抱える脆さ(脆弱性)が露呈する機会となります。例えば東日本大震災では、地域コミュニティの力が注目される影で、社会的に弱い立場の人びと(障害者、高齢者など)における犠牲者が多くなってきました。また災害後の復旧・復興が一段落しても、新たな「災害時」を迎える可能性があります。実際に東日本大震災の被災地では、台風19号(2019年)、福島県沖地震(2021、2022年)と相次ぐ災禍に直面してきました。そこで災害後は、わかりやすい困りごと(住宅の被災等)の対応にとどまらず、災害を契機に露呈した平時の課題にも取り組んでいく視点が、次の「災害時」の課題を解決する意味でも必要といえるかもしれません。

テーマ

社会的貧困への対応

主な活動内容

- 生活困窮者への食糧支援(フードバンク)
- 相談支援

背景にある課題

● 生活困窮者の増加

日本では6人に1人が相対的貧困の状況にあります。また、世帯の貧困に起因する子どもの貧困率も16.3%ほどと高い状況です。コロナ禍において輪をかけて貧困の状況は深刻となっています。(出典:厚生労働省「国民生活基礎調査」)

● 食品ロス・食糧の余剰

フードバンクとは、家庭で眠っている食品や企業の過剰在庫、市場に供給できない食品などを食べ物が必要な世帯へ提供する活動です。消費者庁の調査では、2019年時点で全国のフードバンクは110団体以上あり、全都道府県に1団体以上は存在しているとされ、支援の輪が広がっています。

(出典:消費者庁生活者・消費者教育に関する関係府省庁連携推進会議)

しかし、食糧支援だけでは社会的貧困の根本的解決には至らないため、社会全体としてどのように支え合いの仕組みを作っていくか、検討が重要となっています。



▲食糧を詰める学生ボランティアの様子(フードバンク仙台)

電話から、命に関わるレベルで困っていることを肌で感じた。生活困窮の重大さを感じた。その後は、自分の箱詰めした食料が、届けられた人の命に関わっていると思うと緊張した。

活動に参加した授業受講者の声

テーマ

基礎教育保障

主な活動内容

- 自主夜間中学での学習支援
- NPOでの教育支援

背景にある課題

● 基礎教育の不備

令和2年度の国勢調査によれば、日本の未就学者の数は約9万人、小学校卒の方は、約80万人とされています。このほか、不登校児童生徒や無戸籍児童、外国籍の児童生徒など、義務教育に就学できない方は未だに存在しています。

● 誰にでも開かれた学びの場をつくる

就学できない方、義務教育を早期に離脱した方にも学びの場を提供するNPOや民間事業者が増えています。いつでも誰でも学ぶことができる場をつくることは、多様性を尊重する社会を実現する上で大切な活動の一つです。



▲2021年度授業における活動見学の様子(仙台自主夜間中学)

マイノリティの人々を排除せず、特別扱いもせず、配慮はすることが当たり前の社会にしていける必要があると考える。障害を抱えていても問題なく仕事ができるような環境を整備したり、理解を促すような教育を施したりすることが大切である。

活動に参加した授業受講者の声

ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学生も参加する学外のNPO法人等をご紹介します。課外・ボランティア活動支援センターでは、例年、興味のある団体の説明が詳しく聞ける「ボランティアフェア」なども企画しています。

★連絡先等は各ページをご覧ください！

01	東北大学 SCRUM	震災関係	学内	15p
02	東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	震災関係	学内	15p
03	東北大学 インクストーンズ	震災関係	学内	16p
04	東北大学 福興youth	震災関係	学内	16p
05	東北大学ボランティアサークル たなぼた	震災関係	学内	16p
06	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災関係	学内	17p
07	震災復興・地域支援サークル ReRoots	震災関係	学内	17p
08	東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ	防災	学内 (登録外)	17p
09	国際ボランティア団体 As One	国際	学内	18p
10	東北大学フェイトレード推進サークル amo	国際	学内	18p
11	あすなさ～ASUNASA～	防犯	学内	18p

12	一般社団法人 ワカツク	キャリア・若者	学外	19p
コラム	学内団体と学外団体の特徴を比べてみました			19p
13	特別支援室・学生サポーター	教育・学習支援	学内 (登録外)	20p
14	NPO法人 アスイク	教育・学習支援	学外	20p
15	認定NPO法人 キッズドア	教育・学習支援	学外	20p
16	仙台自主夜間中学	教育・学習支援	学外	21p
17	NPO法人 TEDIC	教育・学習支援	学外	21p
18	NPO法人 PASS ON	教育・学習支援	学外	21p
19	Let's Eat Tohoku	地域支援	学内	22p
20	東北大学光のページェント Navidad	地域支援	学内	22p
21	NPO法人 ケアブレンド	地域支援	学外	22p
22	東北大学 公共空間ポッチャプロジェクト D&I	地域支援	学内	23p
23	海辺のたからもの	環境	学外	23p
24	TSALL東北	環境	学内 (登録外)	23p

00 団体名

QRコード

ジャンル 学内 / 学外

- 1 活動場所・活動地域
- 2 活動頻度
- 3 定期ミーティング
- 4 メンバー数
- 5 活動内容
- 6 アピール・団体の目標など

代表: 代表者名 (学部・学年) | E-mail: hoge@example.com

01 東北大学 SCRUM

震災関係 学内



Twitter

- 1 主に岩手県・宮城県・福島県
- 2 不定期 (目安は月1回)
- 3 毎月第二火曜日
- 4 70名
- 5 #次の災害に備える #東北の魅力発信 #社会課題をより身近に
- 6 メンバー各々の興味関心を軸に幅の広い活動をし、団体外に向けてもボランティアの輪を広げる活動を行なっています。



代表: 井指 晴貴 (農学部3年) | E-mail: vol.tohoku.univ@gmail.com

02 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

震災関係 学内



Twitter

- 1 岩手県陸前高田市
- 2 月1回程度
- 3 水曜日
- 4 28名
- 5 #コミュニティ形成支援 #地域活動の支援 #伝承・情報発信
- 6 住民さんとの交流企画や地域行事への参加、震災関連知識を学ぶスタディツアー等を通して、地域課題解決への貢献を目標としています。



代表: 藤崎 乃瑛 (教育学部3年) | E-mail: tohoku.poca2@gmail.com

03 東北大学 インクストーンズ

- 1 宮城県石巻市
- 2 月に1~2回
- 3 月曜日
- 4 30名程度
- 5 #集会所でのサロン活動 #地域イベントの支援
#石巻でのスタディツアー
- 6 「石巻に寄り添う」をモットーにコミュニティ支援を中心に石巻をサポートしています!

震災関係 学内



Twitter



代表: 平井 千尋 (教育学部3年) | E-mail: tohoku.inkstones@gmail.com

04 東北大学 福興youth

- 1 福島県浜通り地域
- 2 月1~2回
- 3 木曜日(長期休み期間等を除く)
- 4 32名
- 5 #コミュニティ形成支援 #福島の現状を学び発信 #地域活性化の支援
- 6 東日本大震災によりコミュニティが失われた福島の復興を大学生が持つ力で支援するとともに、福島の現状と魅力を発信しています。
毎回の活動がとても楽しいです!

震災関係 学内



Twitter



代表: 明珍 達也 (工学部3年) | E-mail: fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

05 東北大学ボランティアサークル たなぼた

- 1 石巻あゆみ野地区・仙台市大和町・仙台市荒井東・仙台市連防
- 2 月1~3回程度
- 3 特に決まっていない(毎回投票で日付を決定)
- 4 31名
- 5 #お茶会 #季節に関する工作 #各地域のイベント補助
- 6 3B(Band・Beginner・iBasho)を目的に楽しく活動しています。
興味のある方はいつでも大歓迎です!

震災関係 学内



Twitter



代表: 種口 暁人 (工学部3年) | E-mail: tanabotatohoku6@gmail.com

06 東北大学地域復興プロジェクト HARU

- 1 宮城県山元町
- 2 月1~2回
- 3 月1回
- 4 15名
- 5 #スタディツアー #被災地支援 #イベント運営お手伝い
- 6 山元町の方々と交流を深めながらボランティア活動に取り組んでいます。学業やアルバイトとの両立もしやすいです!

震災関係 学内



Twitter



代表: 武沢 聖 (法学部3年) | E-mail: koho@haru-tohoku.org

07 震災復興・地域支援サークル ReRoots

- 1 仙台市若林区沿岸部
- 2 週2日+α(火曜日の定例会議、週末の活動+必要に応じて会議、活動など)
- 3 火曜日19:00~22:00
- 4 31名
- 5 #地域農業や農家の支援 #ツーリズム企画の開催
#地域福祉の構築
- 6 「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」。震災直後から支援の形を変えながら、農村の持続を目指し、地域に根差した活動を続けています!!

震災関係 学内



Twitter



代表: 小林 穂乃佳 (文学部3年) | E-mail: reroots311@yahoo.co.jp

08 東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ

- 1 東北沿岸地域・仙台
- 2 2か月に1回程度
- 3 不定期
- 4 5名
- 5 #被災地をめぐるツアー #防災を学ぶツアー
#震災に関する勉強会
- 6 東日本大震災で起きたことを学んだうえで、その教訓を生かした防災を広めていく活動を主にしています!

防災 学内(登録外)



Twitter



代表: 間嶋 哲平 (工学部4年) | E-mail: moshitosa.tohoku.univ@gmail.com

09 国際ボランティア団体 As One

- ① 東北地方(沿岸部)、海外(カンボジア)
- ② 週2回
- ③ 月曜日
- ④ 55名
- ⑤ #震災について学ぶ(スタディーツアー)
#石巻の復興支援(こころの森) #海外での建築支援(GV)
- ⑥ 私たちAs Oneは、海外建築・東北支援・居場所づくりの3つを活動理念とし、国内外ともに支援活動を行なっている団体です。

国際 学内



Instagram



代表: 岩藤 誠(工学部3年) | E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com

10 東北大学フェアトレード推進サークル amo

- ① オンライン(ミーティング)/仙台駅周辺(フィールドワーク)
- ② 週1回
- ③ 金曜日(メンバーの都合に合わせて変更あり)
- ④ 7名
- ⑤ #高校生に出前授業 #大学祭出展 #商品開発
- ⑥ フェアトレードが当たり前の世の中を目指して活動しています。
私たちの仲間になってみませんか?

国際 学内



Twitter



代表: 武田 与(理学部4年) | E-mail: amo.fairtrade.tohoku@gmail.com

11 あすなさ~ASUNASA~

- ① 宮城県仙台市
- ② 関連する演習受講者は週1回、その他の者は月1~2回
- ③ 月1、2回程度(メンバーの都合に合わせて開催予定)
- ④ 42名
- ⑤ #防犯ボランティア #非行少年立ち直り支援
#サイバーボランティア
- ⑥ 大学・自治体・企業等と連携した気軽な防犯ボランティア活動による安全安心な社会づくりを目指します。

防犯 学内



Twitter



代表: 大儀 凜果(法学部3年) | E-mail: asunasa2022@gmail.com

12 一般社団法人 ワカツク

- ① 仙台を中心に宮城県全域
- ② 週8~20時間。相談して決めます。
- ③ 不定(プロジェクト毎にメンバーの都合に合わせて設定します)
- ④ 20名(社会人6名、
学生インターン・ボランティア14名)
- ⑤ #若者の地域参画支援
#若者と企業との連携支援
#若者の自死予防環境整備
- ⑥ 若者が活躍できる東北をつくるために活動しています。活動開始は1997年に宮城大学の学生グループから誕生しました。これまで東北大学生も多数参画しています。

キャリア・若者 学外



Instagram



代表: 渡辺 一馬 | E-mail: info@wakatsuku.jp

Column

学内団体と学外団体の特徴を比べてみました

	学内団体	学外団体
団体運営の主体	東北大学生(主に2,3年生)	社会人や他大学学生が中心
定期ミーティング	学内の教室や部室等(対面時)	学外の会議室等(対面時)
活動場所	学内~学外まで多様	学外
こんなひとにおススメ	東北大学生の知り合いをつくりたい 学内でも活動してみたい	社会人や他大学の学生とも交流してみたい
活動を通して得られるもの	自分たちで活動や団体をつくりあげていく力	社会人等と協働で活動をつくりあげていく力

13 特別支援室・学生サポーター

- ① 主に川内キャンパス
- ② 週1～2回
- ③ 不定期(月1回)
- ④ 61名
- ⑤ #情報保障 #文字おこし #バリアフリーマップ作成
- ⑥ 誰もが快適な生活を送れる東北大学を目指して活動する団体です。
主に特別な支援が必要な学生への修学支援を行なっています。

教育・学習支援 学内(登録外)



Twitter



東北大学特別支援室 | E-mail: t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

14 NPO法人 アスイク

- ① 仙台市内・岩沼市・白石市・町村部(七ヶ浜町、大和町、松島町、利府町、加美町、美里町、涌谷町、村田町、亘理町、柴田町、大河原町)
- ② 平日週1～2回程度(2～3時間/回) ③ 特になし
- ④ 3～5名程度(会場により異なります)
- ⑤ #小中高生の放課後居場所・学習サポート
#不登校児の居場所サポート #おしゃべりやボードゲーム
- ⑥ 「どんな困難にぶつかっても、自分の人生を好きになれる社会」を目指し、生きづらさを抱える子ども達への居場所づくりなどを通じて、将来を一緒に考えていく活動をしています。

教育・学習支援 学外



facebook



代表: 大橋 雄介 | E-mail: info@asuiku.org

15 認定NPO法人 キッズドア

- ① 仙台市宮城野区
- ② 週1～2回(都合に合わせて参加頻度の調整可能)
- ③ 半年に一度振り返りを行ないます。
- ④ ボランティア100名以上(学生、社会人合計)
- ⑤ #中高生の学習サポート #話し相手、遊び相手
#一緒に楽しく勉強!
- ⑥ すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指し、
無償の学習支援や体験活動を行なっています。

教育・学習支援 学外



Twitter



代表: 渡辺 由美子 | E-mail: tohoku@kidsdoor.net

16 仙台自主夜間中学

- ① 仙台市生涯学習支援センター
- ② 月2～4回
(昼間部: 第1・3水曜日、夜間部: 第1・3水曜日、第2・4金曜日)
- ③ 不定期(年数回) ④ 3名(東北大学生)
- ⑤ #大人の学び直し支援 #多様な学びの場 #みんなで季節の行事
- ⑥ 病気や障がい、家庭の事情、不登校等で学校での学習を満足に
受けられなかった方などの学び直しをお手伝いしています。

教育・学習支援 学外



Blog



代表: 中澤 八榮 | E-mail: sendai.yakan@gmail.com

17 NPO法人 TEDIC

- ① 宮城県石巻市
- ② 月1回～週2回程度(自分に合った頻度で参加できます)
- ③ 不定期(月1回)
- ④ 現在のボランティア登録者数: 35名程度
- ⑤ #子どもの学習生活支援 #居場所づくり #フリースクール
- ⑥ 石巻で、子ども・若者一人ひとりに寄り添い、「自分の人生を自分で
生きる」を支える活動をしています。

教育・学習支援 学外



Instagram



共同代表: 鈴木 平・大津 賢哉 | E-mail: office@npo-tedic.net

18 NPO法人 PASS ON

- ① 仙台市青葉区本町
- ② 月1～3回程度
- ③ 火曜日、木曜日(フリースクール活動日)
- ④ スタッフ6名、学生ボランティア15名
- ⑤ #不登校の子どもたちとの遊び #学習支援 #話し相手
- ⑥ 小中学生対象の無料フリースクールを週2回運営し、不登校に悩む親子に対し、
心の支援・居場所の提供を行なっています。

教育・学習支援 学外



Instagram



代表: 今野 朝奈 | E-mail: freeschool@npo-passon.org

19 Let's Eat Tohoku

① 仙台市内、宮城県各地

② 月1回

③ なし

④ 70名

⑤ #グルメ雑誌制作 #イベント運営協賛 #日帰り旅行

⑥ 食を通した地方創生を理念に、東北の食の魅力を伝える活動をしています。美味しいもの好きはぜひLETへ!

地域支援 学内



Twitter



代表: 岡崎 柊花 (法学部3年) | E-mail: leteattohoku@gmail.com

20 東北大学光のページェント Navidad

① 仙台市内、定禅寺通

② 月2~3回

③ 毎月第1、第3土曜日

④ 21名(東北大学以外含めると約50人)

⑤ #SENDAI光のページェントの企画、運営
#学生によるイベント企画 #リーフレット配布、募金

⑥ 我々はSENDAI光のページェントの運営や宣伝などを行なっています。冬の仙台を盛り上げたい!その思いで活動しています。

地域支援 学内



Instagram



代表: 手塚 高太郎 (農学部3年) | E-mail: student_hikape@outlook.jp

21 NPO法人 ケアブレンド

① 仙台市、多賀城市、塩釜市

② 月1~2回程度。活動頻度は自由です!

③ 特になし

④ 3名(東北大生)。他大学・高校生・中学生ボランティア多数

⑤ #交流会の運営補助 #学生の居場所づくり
#児童~高齢者の話し相手、遊び相手

⑥ 多様な職種、年代の方が集い交流する「ケアブレンドカフェ」を運営しています。楽しく過ごせる場で助け合いのきっかけづくりを目指します。

地域支援 学外



HP



代表: 中山 良子 | E-mail: jam19801218@gmail.com

22 東北大学 公共空間ボッチャプロジェクト D&I

① 仙台市内が中心

② 月1回程度

③ 不定期

④ 8名

⑤ #公共空間ボッチャ運営 #まちづくり #心のバリアフリー

⑥ ボッチャの体験会を企画・運営し、誰もが過ごしやすい共生社会の地域づくりを目指しています!

地域支援 学内



Instagram



代表: 小林 京介 (公共政策大学院2年) | E-mail: boccia.tohoku.univ@gmail.com

23 海辺のたからもの

① 仙台市若林区荒浜、その他

② 月1回~

③ 不定期

④ 学内3名(学外にも数名)

⑤ #海岸清掃、生態系保全 #アクセサリづくり #まちづくり

⑥ 「海辺をたからものに変える」を理念に、海洋プラスチックアクセサリ制作や津波被災地でのまちづくりに取り組んでおります。

環境 学外



Twitter



代表: 畠山 紳悟 | E-mail: umibenotakaramono@gmail.com

24 TSALL東北

① 宮城県仙台市、宮城県川崎町

② 月2回 ③ 火曜日

④ 21名

⑤ #一次産業体験、手伝い #環境系イベントの開催
#Do It Yourself

⑥ 自然、環境等に興味のある学生が集まり、ボランティア色が少なく、やりたいことを実現すること、実体験を大事にしています。

環境 学内(登録外)



facebook



代表: 堀 海人 (工学部3年) | E-mail: tsall.tohoku@gmail.com